産官学民連携により、麻機遊水地の生物多様性を未来に紡ぐ

麻機遊水地ネイチャーポジティブ産官学民連携チーム

静岡理工科大学理工学部居波研究室×常葉大学社会環境学部浅見研究室×麻機ウェットランドクラブ×昭和設計㈱× ㈱自然回復×
㈱環境アセスメントセンター×(一社)グリーンパークあさはた×静岡県環境アセスメント協会×㈱静岡銀行

1.取組概要

静岡市**麻機遊水地**は、令和5年度に環境省「自然共生サイト」に登録され、「民間の取り組み等によって生物多様性の保全が図られている区域」として注目を集めています。しかし、近年では「地球上最悪の侵略的植物」とも呼ばれる**特定外来生物ナガエツルノゲイトウが急速に分布拡大**し、生物多様性に深刻な影響を及ぼし始めています。

こうした状況を打開するため、**大学・団体・企業・協議会が連携し、防除活動**を継続的に実施するとともに、広報にも力を入れ、活動の輪を広げています。

ナガエツルノゲイトウ防除102袋

取組継続年数

2年目(令和6年3月より、各種団体によるウェブ会議・防除活動を重ね取組継続)

2.該当するSDGs目標・ターゲット

生物多様性がもたらす恩恵は、私達が健やかに生きていくうえで欠かせないものです。この活動を通じて、自然の恵みにあふれた**麻機遊水地の生態系・種・遺伝子の多様性を未来へと守り続ける**ことを目指しています。絶滅危惧種や普通種といった**動植物だけでなく、人々が安心して暮らせる地域づくり**にもつながることを願っています。

【ターゲット:】15.5 自然生息地の劣化を抑制し、生物多様性の損失を阻止し、絶滅危惧種を保護し、また絶滅防止するための緊急かつ意味のある対策を講じる。

15.8 外来種の侵入を防止するとともに、これらの種による陸域・海洋生態系への影響を大幅に減少させるための対策を導入し、さらに優先種の防除または根絶を行う。

6-6. 山や森林、湿地、川、地下水を含んでいる地層、湖などの水に関わる生態系を守り、回復させる。

9-1. すべての人のために、安くて公平に使えることを重視した経済発展と福祉を進めていけるように、質が高く、信頼でき、持続可能な、災害などにも強いインフラをつくる。それには、地域のインフラや国を超えたインフラも含む。

その他関連するSDGs目標

3.目標に対する達成状況、実績

令和6年3月:㈱自然回復による勉強会きっかけに情報交換・産官学民による連携開始
令和6年5月:クリーン作戦における防除・展示
令和6年5月～9月:ウェブ対策会議
令和6年10月:防除・麻機遊水地フェスタ展示
令和6年12月:浅畑川で防除
令和7年3月～4月 :防除
令和7年5月:クリーン作戦における防除・展示
令和7年5月～7月:ネット設置・防除・ドローン調査

ナガエツルノゲイトウ
防除は毎回50～102袋

4. 取組が開始されたきっかけ・課題意識

ナガエツルノゲイトウは繁殖力が強く、その急速な分布拡大が**麻機遊水地の生態系のバランスを崩すことにつながる可能性**が高まっています。さらに、下流の大谷川・巴川・田んぼ・清水港湾内でもナガエツルノゲイトウが確認されており、将来的には排水路やポンプ場の目詰まりによる**浸水被害の拡大**、世界遺産・**三保の松原の砂浜への影響も懸念**されています。このため、活動の輪を広げていくことが求められています。また、本取組は**環境や防災面に貢献**するだけでなく、**企業にとってはCSRやTNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)**の対応の場、大学などの学生にとっては**教育・研究の場**ともなり、**環境・経済・社会という観点で重要性が増加**しています。

5.取組イメージ

麻機遊水地における生物多様性の保全を共通の目標として、**各主体が得意分野を活かし役割を担いながら協力体制を構築**し、ナガエツルノゲイトウの防除に取り組んでいます。市・県・協議会に指導を仰ぎながら、産官学民連携による環境教育・広報、大学研究室や学生と連携した調査・研究、防除など、多岐にわたる活動が自主的に進められています。 また、ウェブ会議やオープンチャットを活用した**討論・情報交換を通じて、産官学民連携による自由参加型の活動が継続**しています。

社会 環境教育 → 広報 → 大学調査研究 → 防除 → 生物多様性

環境・防災・経済
TNFD・社会CSR

6.応募した取組の今後の計画・展開

季節ごとに**連携防除イベント**を計画しつつ、**オープンチャット**による自由討論を継続します。また活動の輪を広げる広報・環境教育として、**展示や動画発信**などを行います。

■主な防除イベント（予定）

・夏6月、秋10月、冬12月、春3・5月

■主な広報・環境教育活動

・展示解説7・12月

TNFD・CSR
報告書
情報発信

7.取組のポイント（挑戦性、新規性等）

ナガエツルノゲイトウの繁茂を抑制し、地域の生物多様性を未来に向けて保全するためには、**大学による防除対策研究×ドローン調査**による経年比較とともに、**産官学民の連携の輪を拡大**する必要があります。 このため、**広報・教育を強化**しながら、みんなが参加したくなる**防除イベント**を計画していきたいと考えています。